

2018年11月通常会議 教育長の任命に対する討論

2018年12月21日

杉浦 智子

私は日本共産党大津市会議員団を代表して、ただいま議題となっております、議案第175号 教育長の任命について に対する反対討論を行います。

日渡氏自身のこれまでの経験や実績も含め人物、人柄について問題にするつもりはありません。

しかしながら日本共産党大津市会議員団はこれまで繰り返し求めてきましたが、今の教育委員会の責任者として、大津市の教育現場を経験してこられた方が必要だと考えるものです。

大津市の教育行政が抱える課題解決のためには、大津市ならではの改革を進めていくことが大切であり、大津市の土地柄、合併の経緯の中で培われてきた地域性などは地域の教育力にも大きな影響があると思います。そうした歴史や伝統の元で教育現場や地域の子どもたちとの関わりを経験された方がおられることは、今後の大津市の教育を展望していく上で、子ども観を共有し、何よりも大津の子どもの視点、子どもの立場を一番に学校現場と共に考えていけるのではないかと考えます。

また教育委員会においては、歴史文化基本構想の策定や生涯学習、社会教育の推進など幅広い議論を行っていく必要がありますが、まちづくりの視点も重要となることから大津市での経験者の存在は非常に大きなものがあります。特に教育長という責任ある立場であるからこそ、教育委員会と各現場に寄り添い、双方が理解し尊重し合う関係づくりに努めていただきたく、そのためにも大津市の教育現場の経験者が相応しいと思うものです。

質疑において明らかになりましたが、日渡氏の職責の果たし方をみてみますと、教育委員会の指揮・監督するリーダーとして、心の通った現場との信頼関係が構築できるのか、不安に思うのは私だけではないと思われます。机上での理論は素晴らしいものがあるとすれば、その専門的な見地はアドバイスという形で教育委員会委員として発揮していただければよいのではないかと考えるもので、本議案には反対するものです。